

会 議 録

会議の名称		令和6年度 第2回春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会	
開催日時		令和7年1月27日(月)	開 会 午前(午後) 1時30分
			閉 会 午前(午後) 2時05分
開催場所		春日部市役所3階 会議室302	
議長（会長等）氏名		中村靖史	
出席者	委員氏名	(出席人数：11人) 宣賢奎、田嶋襄、戸村順一、長谷部朋子、土橋栄子、中村靖史、油井仁、鈴木敏仁、玉水きみ子、眞田裕美、田村緑	
	説明者 その他	(出席人数：1人) 介護保険課 計画・事業指導担当主幹 湯浅裕子	
	事務局	(出席人数：13人) 福祉部長 戸張昌代、福祉部次長 高橋浩一、高齢者支援課長 砂田清志、高齢者支援課長寿企画担当主幹 池田裕介、高齢者支援課高齢者支援担当主幹 太刀川勝、高齢者支援課長寿企画担当主査 鈴木涼香、健康保険部長 松本英彦、健康保険部参事 村田政彦、介護保険課介護保険担当主幹 中澤一城、介護保険課計画・事業指導担当主幹 湯浅裕子、介護保険課介護認定担当主幹 関根伸弘、介護保険課地域支援担当主幹 今井真理子、介護保険課計画・事業指導担当主査 太田貴大	
次第及び公開、一部公開、非公開の区分		議題 ・「第9期春日部市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」における介護保険施設整備について ・「第8期春日部市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の介護保険サービス給付費等実績について	
一部公開・非公開の場合はその理由		☐ 要綱第3条第1号該当： ☐ 要綱第3条第2号該当： ☐ 要綱第3条第3号該当： ☐ 要綱第3条第4号該当：	
配布資料		・ 次第 ・ 令和6年度第2回春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会資料	
会議録の作成方法		☐ 録音テープ等を使用した全文記録	
		☒ 録音テープ等を使用した要点記録	
		☐ 要点記録	
会議録署名の指定		副会長（職務代理）が署名する	

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	【 1 開会】
副会長	《副会長あいさつ》
事務局	《資料の確認》 《審議会成立の報告》 《審議事項は公開とすることを確認》 《傍聴人なしの報告》
	【 2 報告】
	(1)「第9期春日部市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」における介護保険施設整備について
議 長	《事務局に説明を依頼》
事務局	《「第9期春日部市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」における介護保険施設整備について説明》
議 長	質問等があるかを確認。
委 員	特養が増床や新築を行うと、ユニット型で作ることが多い。 現在の百合の郷は多床室があり、低所得者の方も入れる施設だが、ユニット型になると低所得者の方が入るのは難しい。 春日部市で新しく作られた特養だと、ユニット型は空いているけれど、多床室を持っている特養は少ないので、順番待ちになるケースがとても多い。低所得者の方が入りやすい多床室についても、春日部市からの意見のなかに盛り込んでほしい。 また、孝楽会については、緊急性のある虐待のケースや居所がない方について、積極的に受け入れている施設で、地域密着型になるという意味合いはとてもあると思う。しかし特養になることで、ショートステイの枠がとて少なくなってしまうことを懸念しており、緊急性のあるケースを受けられる施設が偏ってしまうことが考えられる。特養で受けてもらえるところが少ないので、現場の声を活かしながら開設してもらいたいと思う。
事務局	百合の郷については、春日部市では多床室を希望する方が非常に多いことから、増床する40床を含めて100床全て多床室という

	計画を聞いている。 また孝楽会については、緊急性のある方についてショートステイで積極的に受け入れているが、計画の理念では、そういった方の終の棲家となるように緊急性の意味合いをもった上での特養ということで聞いている。 春日部市としても行き場がない方、困難ケースについて春日部市民を最後まで見てくれる特養であるということから選定を行っている。その点についても、今後運営のなかで配慮してもらうようお願いする。 (2)「第8期春日部市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の介護保険サービス給付費等実績について
議 長	《事務局に説明を依頼》
事務局	《「第8期春日部市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の介護保険サービス給付費等実績について説明》
議 長	質問等があるかを確認。
委 員	春日部市の認定率の推移について、R4からR5にかけて1.1%上昇している。以前から、全国平均と乖離があり、春日部市は認定率が低いということを言っている。上昇した理由について、「後期高齢者が急速に増えていることが要因として考えられる」と分析しているが、後期高齢者の増加については春日部市に限ったことではなく、全国的に同じ割合で増えているはずだ。春日部市の認定方針や基準が変わったなど、他にも理由があるのではないだろうか。もう少し要因分析を進めた方がいいと思う。今後R6に向けて認定率が変わってくると思うが、要因を明確にしたうえで比較した方がいいと思う。 埼玉県が公表している令和4年度の健康指数について、埼玉県と春日部市のデータが示されているが、健康寿命があまりにも高すぎると思う。平均寿命の全国平均は男性が81歳、女性が87歳となっていて、要介護期間の全国平均は、男性が9年、女性が12年となっている。これを踏まえると男性は72歳、女性は75歳が健康寿命となる。埼玉県も春日部市も健康寿命がこれだけ長いのは別のデータを使用しているのだろうか。どのようなデータを使用しているのか教えてほしい。

事務局	認定率については、全国平均と乖離している要因がはっきりしていないため、要因分析を進めたいと思う。 健康寿命については、この数値を使うにあたって確認した埼玉県の資料において、全国で使われている健康寿命の出し方と、埼玉県健康寿命の出し方が違うと記載がある。埼玉県では、65歳に達して、要介護2以上になるまでの期間で出しているため、健康寿命が長く出ている。春日部市の数字として使えるものが、埼玉県が使っているものしかなかったため、国の数字とはずれるが、県の平均と比較するという観点から使用している。
委員	基準が違うということが分かった。なぜ健康寿命の出し方が違うのか県に確認したいと思う。
委員	「R5年度において要支援者の約40%がサービスを利用していない状況となっている」について、代行申請を行っているなかで、要支援者で介護保険外の自費ベッドサービスを利用している方が非常に多い。他の介護サービスを使っていなくても、更新の時期にやはり必要だからと介護申請をするケースがとて多い。この40%のうちの大半が介護ベッドだけというケースが多いのではないかと感じている。これについて洗いだしてみるのも必要ではないか。
議長	県平均や国平均のデータはあるのか。
事務局	全国的に行われている在宅介護実態調査において、福祉用具以外のサービス利用有無についての質問項目がある。最近、全国比較をするためにデータを国のシステムにあげるよう指示があったので、そこで比較はできると思う。他市との比較を全くしていない部分なので今後比較していきたい。
議長	では次回提出をお願いします。
委員	要支援でサービスを利用していない人について、包括ごとに、支援が必要だと思われるサービスを利用していない方に対して、連絡をしてほしいと名簿が包括に届いていた時期があったが、現在はなくなっている。包括ではフォローしきれない部分もあるので、この現状を危惧するのであれば、検討する必要があると思う。
事務局	検討する。

議 長	議事の終了。議長の職を解く。
	【3 その他】
事務局	来年度は2回開催予定。日程については、詳細が決まり次第、改めて連絡する。
	【4 閉会】
副会長	《副会長あいさつ》
	【閉会】
議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和7年2月20日 署名者の職・氏名 春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会 副会長 中村 靖史	